

貯金箱



貯金箱は、世界的に見ると古くからの歴史があるようで、イタリアのポンペイ遺跡からも出土しています。日本の貯金箱の歴史は残念ながらはっきりしませんが、江戸時代には品物を買う時に儉約して余ったお金を貯めておく堪忍箱かんにんばこという箱や、恵比寿、大黒の形をした貯金箱があったことが子寿里庫叢書の第4編「貯金箱」という本に紹介されています。

貯金箱が広く一般に普及したのは、その名の通り明治8年に郵便貯金制度が成立してからだと考えられます。明治期は素焼きの宝珠型ほうじゆのものが多く作られ、貯金玉と呼ばれていました。その後は、時代を反映したさまざまな形のものが製作されるようになりました。

写真は明治、大正期のものと思われる土蔵とたぬきの貯金箱です。

(表紙解説)

東海道五拾三次之内 小田原 酒匂川

箱根の山裾れんだいに小田原城とその城下町を遠望して、中央に酒匂川の川越しの様子が描かれている。連台れんたいという2本の棒に板をわたしたものに駕籠や人に乗せ、川越し人足がそれを担いで川を渡す徒歩渡りである。身分の高い武士用の引戸駕籠ひきどに乗せた連台のうしろに従う槍持らは人足の肩車で渡っている。

この図は後版で、初版とは背景の山の形が違い、川越しの順番を待つ旅人などが加えられている。